

F

2009.MAY

あなたとFUJIを見つめるLIVE MAGAZINE

volume 30

Face to Face

[フェイス トウ フェイス]

笑顔でつなぐコミュニケーション

株式会社 サンメイカ
代表取締役

吉川 隆裕

Takahiro Yoshikawa

お気に入り SHOP
新緑の季節になりました

GOURMET
素敵なお店で食事を
楽しみましょう

富士山百景コンテスト
富士山って素晴らしい

Book information
のんびりと読書
気持ちのいい季節です

Smile3
池田さんのご家族を紹介します

Happy present
ゆらぎの里
入浴ペアチケット

 星野新聞堂



朝日新聞 ご愛読の皆さまへ

拝啓 平素は朝日新聞をご愛読いただき、まことにありがとうございます。

さて、朝日新聞は明治12年(1879年)1月の創刊以来、本年1月には創刊130周年を迎えることができました。これもひとえにご愛読いただいている読者の皆さまの暖かいご支援のおかげと深く感謝申し上げる次第でございます。

これからも私どもは読者の皆さまの視線を大切にしたいと報道と正確でいねいな配達をより一層心がけ、地域の方々に信頼と親しみを感じていただけるよう努力をしております。

現在は、これからの時代の重要なテーマであり、皆さまの関心も深いと思われる「環境」「教育」「医療」に重点をおいてお伝えしています。

朝日新聞社、星野新聞堂ともに、これからも読者の皆さまのご期待に応えられるよう努力を続けてまいります。

末永いご支援のほどをよろしくお願いいたします。
敬具

2009年春

朝日新聞社
星野新聞堂

いつまでも
チャレンジしたい

「あの頃は楽しかったな」などと振り返ることは人間誰にでもあるだろう。これは年齢には関係なく、人それぞれのあの頃がある。老人はちよつと前の60歳の頃を思い浮かべ懐かしむかもしれないし、20歳の若者さえほんの少し前の高校時代を懐かしむ事がある。人それぞれに、それまで積み重ねた人生を懐かしく思い出す。それは青春時代の甘く苦い思い出である場合もある。はたまた人生の節目で経験した幸福な瞬間、二期熱中していた事など、普段は自分の胸の中に大切にしまつてあるものがむくくと騒ぎ出すことがある。今回登場頂いた吉川さんの場合は次の様な青春時代の思い出から始まった。

「私が若い頃はフォークソングの全盛期でした。現代のカラオケの様な所は無く、フォークギターを片手によく歌いま

した。特に高校時代は歌う機会が多く、あの頃の歌は今でもよく覚えています。」

吉川さんは静岡県下全域を商圏とする菓子飲料の卸商社(株)サンメイカの代表取締役である。サンメイカとは余り聞き慣れない名前だと思われるだろうが、元々は県内にあった3つの菓子卸問屋が1984年に統合して、現在の形になった。サンメイカとは、昇る太陽のサン(sun)と静岡県の銘菓(メイカ)の組合

せからネーミングしたと言う。明治、グリンコ、ロッテなどの菓子と、ダイド、サントリーなどの飲料自動販売機を展開している。きつと読者の皆さんも知らずの内にサンメイカの扱った商品を口にしていただろう。現在吉川さんは同社の代表取締役として県内の拠点(静岡市に本社、富士市、浜松市に販売拠点を構える)はもとより、事業活動の範囲は極めて広く多忙な日々を送っている筈だが、今回の取材で富士市伝法の事務所を訪ねると、暖かく迎えてくれた。

や仕事、対応で見せる落ち着いた素振りからは、一流のビジネスマンの持つ大人の雰囲気を感じる。また相手に対する気遣いや自信のある表情からは経営者としての懐の深さを感じ、より一層魅力的な雰囲気を感じ出している。若者から見ればダンディーで「カッコイイおやじ」といった印象を受けるが当の本人はまったくそんな積りは無いらしい。

「おやじバンド」という言葉を最近よく耳にする。TVのCMで矢沢永吉が「お宅のTVはHi-Visionなの？」とDVDの？TVはHi-Visionなの？にDVDは違うの？もったいない！とのたまは、何故かやけに説得力のあるCMに仕上がっている。今やCMタレントとしても独自の領域を築いた矢沢さんだが、もとちよつと危ないオジサンが「俺の魂の叫びを聞いてくれ！」とばかり自己陶酔して歌う姿が我々の心に焼き付いている。当初はカッコ悪いオジサンの典型(失礼)と思われていた矢沢さんの、あそこまで二途に歌い続けている姿とSonyがブルーレイにかける意気込みが見事に



株式会社 サンメイカ
代表取締役
吉川 隆裕
よしかわ たかひろ



岳南法人会が毎年開催しているチャリティーコンサート。今年は『岩崎宏美』のコンサートを開催。コンサートの収益金は全て社会福祉団体に寄付される。

旅案内 日本全国地図 1:350,000

抽選で 500名様 プレゼント

日本の絶景を訪ねる旅

明日への一頁に、つながっている。

130 朝日新聞

ご愛読ありがとうございます。

旅案内
日本全国地図
「日本の絶景を訪ねる旅」

朝日新聞の創刊130周年を記念して、「旅案内日本全国地図『日本の絶景を訪ねる旅』」を抽選で500名様にプレゼント致します。

住所、ご契約者名、電話番号をご記入の上ハガキかメール、またはFAXにてご応募ください。

ご応募資格

- ・現在、朝日新聞をご購読のお客様
- ・これから朝日新聞のご購読予定の方

当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

宛先 〒417-0049
富士市緑町1-28
宛名 星野新聞堂「旅案内」係まで
E-mail hoshino8@nifty.com
FAX (0545) 52-9757

一致し、極めてピュアーなCMに仕上がっている。最近ではそんな矢沢さんの生き様に共感すら覚える。矢沢さんに限らず信念を一途に持ち続けた中年のアーティストが醸し出す雰囲気は、よく熟成されたワインにも通ずるものがある。矢沢さんに限らず井上陽水、谷村新司、稲垣潤一、桑田佳祐など、年を重ねて益々盛んだ。サザンオールスターズは残念ながら昨年活動を休止したが、実は吉川さんはそんな『おやじバンド』のメンバーでもある。

「JC(青年会議所)のOBでバンドを組みました。バンド名は『リゾット』です。『おやじ』から連想される言葉が『おじや』だったので、さすがに日本語では格好がつかず(リゾット(西洋風雑炊))にしました。音楽好きが集まり趣味でやっているバンドですよ。年に2回程、ライブをやり仲間と楽しんでます。私の担当はヴォーカルです。昔から歩くジュークBOXなどと呼ばれていました。青春時代の歌は大抵覚えてます。自分で言うのも何ですが、これは才能なのかと思えました。(笑)しかし現在バンドで演奏する曲は洋楽が多く、この才能が活かし切れていません。ドゥービー・ブラザーズ、サンタナ、エリック・クラプトンなど、なかなか難しい曲ばかりですがとても新鮮な気持ちで歌えるし、覚えていくのも楽しいものです。もちろん邦楽も歌いますよ。サザンオールスターズとかJ・WALKなどを演奏します。」

音楽の話をする吉川さんは会社経営者とはまた違う表情を見せる。歌を歌うこと、あえて年齢を重ねてからバンド活動をしようと思ったキッカケは何だったのだろうか?

「JCの総務委員会では楽器を嗜む

人が何人か集まり音楽をやっているのも加わることになりました。私が学生の頃は下宿先に集まり仲間内でよく歌いました。リゾットのメンバーでもある小長井(富士市議員)もその仲間の一人です。私達の若いころはカラオケもなくパソコンもなかった。あるのはフォークギターだけ。誰かがギターを弾くと自然と歌いだす。歌わない時は、人生とは!恋愛とは!などとよく激論してました。小長井とはそんな間柄です。しかしバンドとは、いざやってみると難しい。しかもライブハウスで大勢の前で歌うのだから当然、緊張もします。初めは楽しむなんてことは出来なくてただ必死でした。やっとな今、少しは楽しむことが出来るようになったような気がします。音楽を仲間と楽しむことは、年齢も関係ないし、仕事にもハリが出る。やはりいいものですね。」

吉川さんは自らの音楽活動の他にも多彩な分野で活躍している。今年の2月7日、ロゼシアターで岳南法人会主催の岩崎宏美のチャリティ・コンサートがあった。昨年は稲垣潤一だったが、いずれも満杯のロゼシアターが透き通った美声に酔いしれた。公演を観た多くの市民からは次は誰が来るのかと期待は募る一方だ。吉川さんがかつては岳南法人会の青年部の部長としてこのコンサートに携わり、現在の礎を築いてきた二人であるが、そんなところにも彼の経験が生きているのだろう。商工会議所の青年部も然りだが、これらの活動は企業人としての社会活動の二環かとも思えるが、実は吉川さんは富士宮西高校のバレー部のコーチも務めている。企業人として忙しい日々を送っているながら、音楽活動、社会活動、そしてバレーボール部のコーチまで引き受けてしまうとは、一体どういうことだろうか?

「私はもともと学生時代からバレーボール部で鍛えられました。長年やってきたお陰でそれなりの経験をもち合わせていたのですが、高校時代の恩師からたまたまコーチのお話を頂きました。しかし人格形成に大きく影響する高校時代に私が本気で生徒に接することが出来ない、かえって迷惑をかけてしまうと逡巡しましたが、バレーを通して私が伝えた事が将来バレー以外でも何かの役に立つてくれれば嬉しいと思い、引き受ける事にしました。練習中に教頭先生が、生徒たちに『吉川さんは忙しい中来てくれているのだから、もっと感謝して練習をしろ』とおっしゃいます。正直、私の方が感謝しています。自分が長年鍛錬して来た事を若い人達に伝える機会を頂いたのだから、こんな嬉しいことはありません。今は人生80年といいますがね。戦国時代はおおよそ50年がいくところでした。そう考えれば50歳になつてもまだ人生は30年もあります。戦国時代の平均寿命に換算すると30歳です。まだまだ余生のことを考えるには早い。人生80年のプランを立てて、いろんなことにチャレンジしていきたいです。たまたま私は音楽をやったりしています。が、別にサッカーだつていいじゃないですか。新しいことにチャレンジし、いろんなノウハウやスキルを身に付けて、ポジティブに生きて行きたいと思えます。2016年に開催(未決定)の東京オリンピックなんて通過点ですよ。」

話しをしているだけで元気を貰える様な人がいる。吉川さんはまさに、その様な人物だった。時間には過去、現在、そして未来があるが、自分がどこを見据えて生きていくかは人それぞれだ。未来に希望を抱き今を楽しみ吉川さんは、そこはかとな爽やかに包まれていた。

リゾット

Profile

青年会議所のOBで結成。
ライブを中心に活動をしている。

Member

- | | | |
|----------------|--------|----------------------|
| ヴォーカル | 吉川 隆裕 | (株)サンメイカ 代表取締役 社長 |
| ギター | 望月 由明 | 望月建設(株) 代表取締役 社長 |
| ギター | 小長井 義正 | 市議員 |
| ベース | 今仁 浩巳 | 富士健診センター 事務長 |
| ドラム | 鈴木 和彦 | (株)プランニング富士 代表取締役 社長 |
| ヴォーカル
キーボード | 佐藤 由衣 | 花響(はなゆら) 音楽教室 主催 |
| パーカッション | 佐野 和資 | (株)佐野プロパン 代表取締役 社長 |



おやじバンド(リゾット)で力を入れて歌う吉川さん。
バンドメンバーは元JCメンバーが主体だ。



富士宮西高校バレー部の試合前の様子。自らが球出しをして、生徒たちの指導にあたる。